

週間市場レポート (2022年7月11日~7月15日)

1) 先週の市場動向

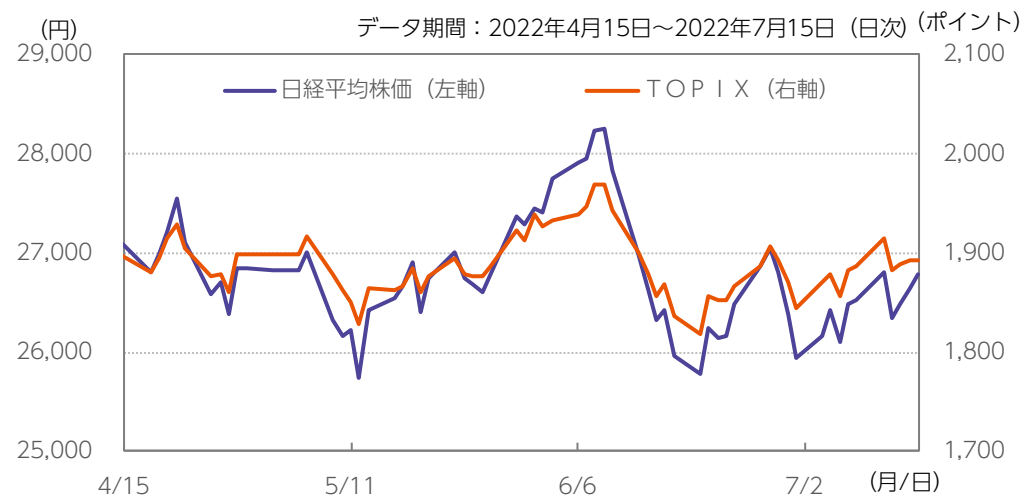
指数名	国	前週末 2022/7/8	先週末 2022/7/15	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)	🇯🇵	26,517.19	26,788.47	1.02 ↗
TOPIX (東証株価指数)	🇯🇵	1,887.43	1,892.50	0.27 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)	🇺🇸	31,338.15	31,288.26	▲0.16 ↘
S&P500種指数	🇺🇸	3,899.38	3,863.16	▲0.93 ↘
ナスダック総合指数	🇺🇸	11,635.31	11,452.42	▲1.57 ↘
ユーロ・ストックス50指数	🇪🇺	3,506.55	3,477.20	▲0.84 ↘
S&P/ASX300指数	🇦🇺	6,660.63	6,586.04	▲1.12 ↘
上海総合指数	🇨🇳	3,356.08	3,228.06	▲3.81 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)※		835.73	809.28	▲3.17 ↘
東証REIT指数	🇯🇵	1,944.39	1,955.39	0.57 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数	🇺🇸	786.97	784.89	▲0.26 ↘
ASX300 REIT指数	🇦🇺	1,397.10	1,395.30	▲0.13 ↘
グローバルREIT (除く日本)※		184.19	183.28	▲0.49 ↘
日本10年国債 (%)	🇯🇵	0.244	0.237	▲0.007 ↘
米国10年国債 (%)	🇺🇸	3.080	2.915	▲0.165 ↘
ドイツ10年国債 (%)	🇩🇪	1.345	1.133	▲0.212 ↘
英国10年国債 (%)	🇬🇧	2.233	2.091	▲0.142 ↘
ドル/円	🇺🇸	136.10	138.57	1.81 ↗
ユーロ/円	🇪🇺	138.65	139.63	0.71 ↗
英ポンド/円	🇬🇧	163.76	164.32	0.34 ↗
豪ドル/円	🇦🇺	93.31	94.08	0.83 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,618.02	2,693.77	2.89 ↗
WTI原油先物 (ドル)		104.79	97.59	▲6.87 ↘
CRB指数		287.75	277.64	▲3.51 ↘

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比で上昇しました。

10日に投開票が行われた参議院選挙で与党である自民、公明両党が改選議席の過半数を獲得し、政権与党が政策を進めやすくなるとの期待からリスク選好姿勢が強まり、週初上昇しました。その後米国株の下落を受けて、一時下落する局面もありましたが、円安進行を受けて輸出企業の採算が改善するとの見方や、大手企業の業績上方修正が好感されたことなどから、買いが優勢となり前週末より上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

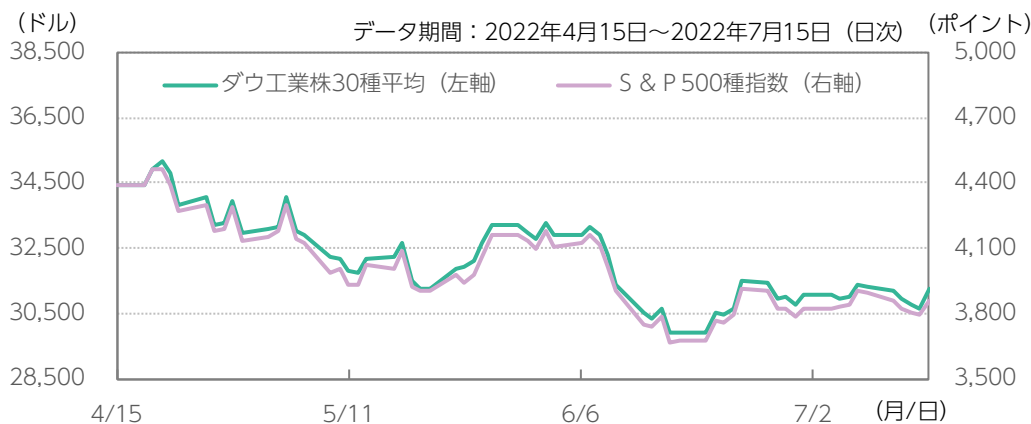
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下しました。米国で大幅な利上げが行われるとの懸念など金利上昇(価格下落)要因はあったものの、日銀が国債買い入れ政策を継続していることや国内の新型コロナウイルス感染再拡大への懸念などから、相対的に安全資産とされる国内債券は買いが優勢となり（利回りは低下）、前週末比で小幅な低下となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

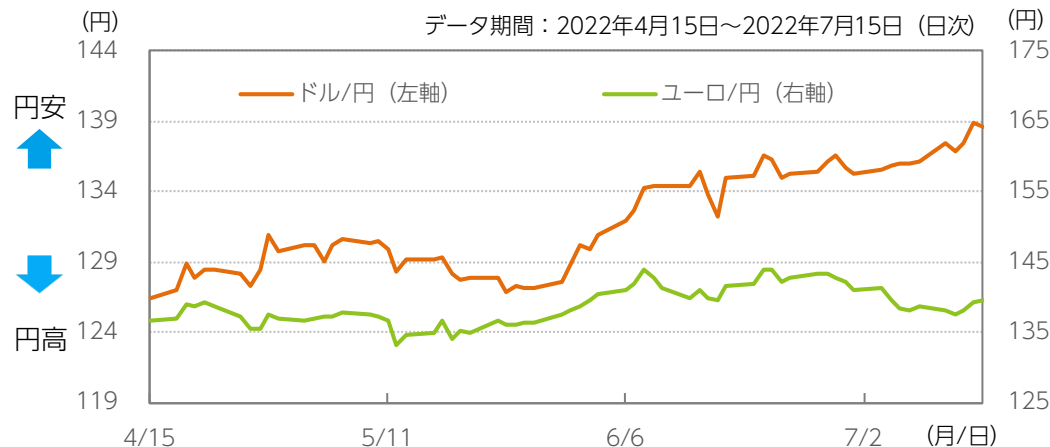
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。週初は12日(水)に発表されるCPI（消費者物価指数）を控え様子見ムードが強まる中、景気減速懸念からやや下落基調となりました。CPIが市場予想を上回り、大幅な利上げ観測が強まると下落幅を拡大しましたが、週末にかけて市場予想を上回る企業決算が多く発表されると買いが優勢となり、前週末比ほぼ横ばいでの引けとなりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。参議院選挙結果を受けて、岸田政権長期化への期待感からリスク選好の流れが強まったことや、米CPIを受けて米国の大幅利上げ観測が強まり、日米の金利差拡大が改めて意識されたことなどから、一時139円をつけるなど円売り米ドル買いが進みました。



5) 今週の見通しについて

主要国の金融引き締めにともなう世界の景気減速懸念と市場予想を上回る好決算とが綱引きとなり、先週の株式市場は一進一退の展開となりました。市場の注目を集めていた6月の米CPIは、前年同月比+9.1%と市場予想（同+8.8%）を上回り、1981年11月以来の高い伸びとなりました。その結果、7月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で1.0%の大幅な利上げが実施されるとの懸念が一時強まりましたが、金曜日に公表された経済指標が将来のインフレ抑制が期待される内容であったことを受けて再び0.75%の利上げとの見方が優勢になっています。

今週は木曜日に日銀金融政策決定会合とECB（欧州中央銀行）理事会が控えていますが、日銀は政策変更なし、ECBは0.25%の利上げが予想されており、予想通りであれば市場に対する影響は限定されると考えられます。今週も企業決算の発表が続くため、良好な決算や業績見通しの上方修正を発表した銘柄への買いが相場を支え、底堅い展開となることが想定されます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY
ASSET MANAGEMENT

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>